

2024年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	労働経済学(Labor Economics) 393116-14-140					担当教員	石川 英樹 (イシカワ ヒデキ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	3年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要									
労働経済学の基本である①労働市場の仕組みと機能、②労働者の意思決定、③企業の採用についての意思決定、について学ぶ。また、卒業後に社会人として労働者として就業することを見据え、AI代替や働き方改革などの現実の問題へ関心や疑問を抱き、説明や評価ができる能力の醸成を目指す。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
専門的知識・技能を活用する能力を育成する授業である。									
③ 授業の進め方・指示事項									
毎回、配布資料により解説を行い、演習問題による理解の確認と知識定着を進める。期末試験に加えて数回の小テストにより、平素からの学びの成果を確認する。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「マクロ経済学」「ミクロ経済学」									
⑤ テキスト（教科書）									
特にもうけない。各回、必要に応じて資料・レジュメ等を配布する。									
⑥ 参考図書・指定図書									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太田聡一・橘木俊詔『労働経済学入門 新版』有斐閣</li> <li>・ 脇坂 明『労働経済学入門-新しい働き方の実現を目指して』日本評論社</li> </ul>									
⑦ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安									
<ul style="list-style-type: none"> <li>(i) 労働市場の需要・供給に関するミクロ経済学の基本的事項を他者に説明できる。</li> <li>(ii) 労働関連の諸制度（年功賃金、労働組合、最低賃金制度など）について他者に説明できる。</li> <li>(iii) 現実の諸問題（失業、賃金格差、若年者の雇用問題など）について分析できる。</li> </ul>									

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 労働市場の需要・供給に関する基本的事項	労働市場の需要・供給の仕組み等に関して資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している	労働市場の需要・供給の仕組み等に関して資料等に頼らず説明できる	労働市場の需要・供給の仕組み等に関して資料等を見ながら説明できる	労働市場の需要・供給の仕組み等に関して資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	労働市場の需要・供給の仕組み等に関して資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(ii) 労働関連の諸制度	諸制度について各内容・目的・課題を資料等に頼らず他者に説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している	諸制度について各内容・目的・課題を資料等に頼らず説明できる	諸制度について各内容・目的・課題を資料等を見ながら説明できる	諸制度について各内容・目的・課題を資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	諸制度について各内容・目的・課題を資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(iii) 現実の諸問題	実社会の労働の諸問題に対する分析を資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた分析も説明できる	実社会の労働の諸問題に対する分析を資料等に頼らず説明できる	実社会の労働の諸問題に対する分析を資料等を見ながら説明できる	実社会の労働の諸問題に対する分析を資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	実社会の労働の諸問題に対する分析を資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない

⑨ 学習到達目標(評価項目)	定期試験(レポート含む)	小テスト	課題	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%	20%			30%		100%
(i) 労働市場の需要・供給に関する基本的事項	20%	10%			10%		40%
(ii) 労働関連の諸制度	20%	10%			10%		40%
(iii) 現実の諸問題	10%				10%		20%
フィードバックの方法	小テスト結果は返却して解説する。						

⑩ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)
労働・就業に関する現実の様々な問題を題材にして、労働に関する社会現象に対する理解力・説明力を向上できるような授業を目指す。卒業後に必要な諸制度等の知識習得も目標とする。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション	配布資料の振り返り	60分
2	労働市場の概観～労働市場とは何か	配布資料による労働市場の概要の振り返り	120分
3	経済学で捉えた労働市場～需要と供給	配布資料による振り返り、ミクロ経済学の均衡の復習	180分
4	労働供給について	配布資料による労働供給決定の振り返り	180分
5	労働需要について、振り返り演習	配布資料による労働需要決定の振り返り	240分
6	労働の質と教育・訓練	配布資料による教育・訓練に関する振り返り	120分
7	長期雇用制度について	配布資料による長期雇用制度の振り返り	180分
8	労働者のキャリアと昇進、振り返り演習	配布資料による労働者のキャリアと昇進の振り返り	240分
9	労働組合の役割	配布資料による労働組合の役割の振り返り	120分
10	賃金格差について	配布資料による賃金格差についての振り返り	180分
11	正規労働と非正規労働について、振り返り演習	配布資料による正規労働と非正規労働についての振り返り	240分
12	失業と労働市場	配布資料による失業と労働市場についての振り返り	120分
13	最低賃金制度等について	配布資料による最低賃金制度等についての振り返り	120分
14	働き方改革、若年者の就業、就職活動等について	配布資料による若年者の就業、就職活動についての振り返り	180分
15	全体の振り返り	配布プリントの演習問題に取り組む	240分

⑫ アクティブラーニングについて	
知識定着・確認型 AL を採用する。新聞記事などを用いた現実の現象説明への応用にも取り組む。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性